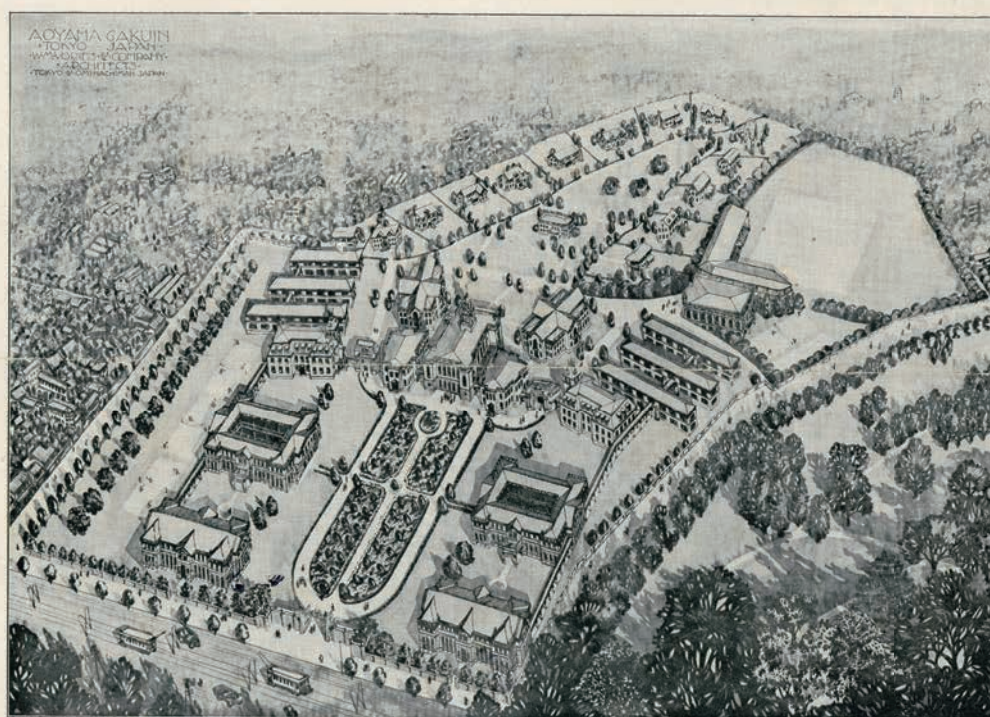


Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 30号



BIRD'S EYE VIEW AOYAMA GAKUIN.

「BIRD'S EYE VIEW AOYAMA GAKUIN」(1924年)

外国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築事務所により作成された青山キャンパスのグランドデザイン案。キャンパス中央付近には十字架を模したような形状の建物(2棟)や寄宿舎らしき建物、また後方には宣教師館も描かれている。実現には至らなかったが、1916年発行の『青山学報』にはすでにほぼ同じ校舎配置図が「青山学院拡張計画図」として掲載されている点から見て、公式な計画であったと推察される。

本学院においてヴォーリズ建築事務所により設計された建物は、過去に2棟存在していた。神学部寄宿舎(ウィルソン・ドミトリー)と高等女学部のブラット記念講堂である。2棟ともに第二次世界大戦の際に焼失(ブラット記念講堂は大破した後に高等部のPS講堂として修復)し、今はその姿を見ることはできない。

学院創立150周年を迎えた今、キャンパスの再開発計画も着々と進展しているが、ここで立ち止まることなく、さらに100年後を見据えたキャンパスのグランドデザインを俯瞰して描いてみてはどうだろう。

青山学院史探訪

グランディ郡歴史協会博物館 スクーンメーカー常設展示

～「宣教の種」が生まれた場所で～ 河見誠 — 2

資料センター所蔵資料紹介

「青山学院高等部新聞」 吉成大輔 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内ほか — 8

グランディ郡歴史協会博物館 スクーンメーカー常設展示 ～「宣教の種」が生まれた場所で～

大学コミュニティ人間科学部教授・元女子短期大学学長 河見 誠

2024年6月29日、Museum of the Grundy County Historical Societyにおいて、ドーラ・E・スクーンメーカー常設展示のオープニング・セレモニーが行われた。

この博物館はイリノイ州シカゴ中心街から南西に60マイル程のモリス (Morris) という人口約1.4万人の小さな市にある。モリスはドーラが宣教に備えて教師をしていた場所である。宣教を決意した青春時代を過ごしたのは、そこから13マイル程離れたシャナハン (Channahon)、そしてその前に一家 (一族) がニューヨークから移住して最初に居を構えたのが、さらに16マイル程離れたウィルミントン (Wilmington) である。ウィルミントンのOakwood Cemeteryにはドーラの父、姉妹たちを含めた一族のお墓がある。(棚村恵子著『しなやかに夢を生きる』1,2章、エピソード参照)



オープニング・セレモニー テープカット

私がモリスを初めて訪れたのは2023年9月中旬。8月から一年間在外研究の機会を得、University of Notre DameのLaw Schoolに受け入れて頂くことになったが、当該大学が位置するインディアナ州サウスベンドからモリス等まで車で西に約3時間ということがわかったので、青山学院女子短期大学のルーツ、青山学院のルーツとなる場所を一度訪問してみようと思い、ドーラ伝著者の棚村先生にゆかりの場所を伺って渡米した。



ドーラが教鞭を執った学校跡(現在、歯科医院)。今回の展示に合わせて、跡地の碑が建てられた

一年前、私はこの博物館のことを知らなかったし、展示も全く念頭になかった。実は現地の人たちも、ドーラのことをほとんど知らないということがモリスに行って分かったのであるが、出会いが会いを、そしてつながりを生み、郡を挙げての展示が実現するまでに至った。奇跡的な出会い、そこで関わった皆様に心からの感謝を申し上げたい。

9月の訪問での「衝撃」を列挙しよう。まずモリス図書館に、棚村先生が執筆調査の際に大変お世話になったというDeborah Steffesさんがまだいらっしゃるかどうか、訪ねてみた。既に退職されていたが、上記博物館でキュレーターをなさっているということがわかったので、早速メールを送り、後日お会いすることになった。ここから博物館との関わりが生まれることになる。

その日、ドーラが教師をしていた学校の跡地に立ったのであるが、その時には体が震えた。

そして、棚村先生から、ステフェスさんが以前送ってくれた新聞記事(ドーラが日本から持ち帰った蓮の種をシャナハンの運河に蒔いた、それが現在[1922年]咲き誇っているという内容)の真偽を確かめて欲しいという依頼があったので、見当を付けていろいろ回ってみたところ、(睡)蓮の大群を発見。その時にはまた

体が震えた(但し、この場所で間違いないかはさらに調査が必要である)。ドーラは5年で帰米することになったけれども、日本で蒔いた宣教と教育の「種」がこのあと大きく花開いてほしいという祈りを込めて、「種」を蒔いたに違いない。運河を目の前に、ドーラの思いに心を合わせて祈りを捧げた一時であった。

博物館との関係は続いた。11月末モリス三度目の訪問の際、校友会シカゴ支部、そして支部に限らず青山学院関係者がこの地を訪問した時に「ここからドーラが旅立った」ということを覚えることができる展示場所を、博物館の中に作って貰えないか、と思い切って依頼した。然るに、博物館はその思いを受け止め、スタッフが更に精力的に調査を進めて、「ドーラの生涯を辿る」6つのコーナーと、「青山学院・棚村恵子著書紹介」のコーナーを持つ、充実した内容の展示が実現するに至った。

19世紀にこの小さな町から太平洋を越えて世界に旅立ち、国と国、人と人、神と人をつないだ、熱い信仰と信念を持った女性がいたことに感銘を受けた博物館のスタッフの中にもドーラの「種」が蒔かれ、彼女の具体的な歩みを地域の人々、特に子どもたちに伝えたい、そして世界(日本)とのつながりを覚えたいという強い思いが生まれ、共有され、育まれていったのである。

青山学院として展示と協力を了解くださった山本

与志春院長はじめ学院本部、関連資料を提供くださった資料センター(展示にはセンター所蔵資料も多く含まれている)、そして現地で博物館と協力応援態勢を取ってくださった校友会シカゴ支部に感謝したい。とりわけ伊藤泰彦支部長は調査と交渉を中心的に担い、博物館と密な連絡を取り、何度も足を運び展示を手伝ってくださった。この展示協力は校友会による創立150周年記念事業となっている。



棚村先生・校友会シカゴ支部の皆さんと共に一幼少期ドーラが通っていたFirst United Methodist Church of Wilmingtonにて(儀式後の、足跡を辿るバスツアーで訪問)

山本院長にはセレモニー祝辞のビデオメッセージを送って頂いた。そしてこの晴れの日棚村先生が渡米してセレモニーに出席くださったことは、参加者皆にとって大きな喜びであった。今、ドーラの蒔いた小さな種が150年後、モリスにおいても新しい芽を出し、更にダイナミックに花開こうとしている。

もう一つ報告をすると、1874年9月ドーラの日本への派遣式が行われたFirst United Methodist Church of Evanstonにも校友会シカゴ支部の方々と共に、4月に訪問した。なお、教会の近くには、津田仙が女性キリスト者禁酒同盟(WCTU)に寄贈した鐘が収められているFrances Willard House Museumがある。

現地に立つことの意義、博物館の意義を強く感じる1年であった。近い将来、青山学院に関わる者たちによって、モリスの博物館を起点にし、シャナハン、ウィルミントン、そしてエバンストンの教会を含めた、ドーラの足跡を辿るツアーができれば素晴らしいと考えている。

なお、この間の経緯、展示の詳細等については、「スクーンメーカーの『宣教の種』」(仮)と題した論考の中で、後日、スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター年報にて報告させて頂く予定である。



上:常設展示コーナー、下:オープニング・セレモニーの様子

「青山学院高等部新聞」

高等部国語科教諭 吉成 大輔

高等部では、昭和25(1950)年から、特設クラブである出版部による「青山学院高等部新聞」を発行している。縮刷版は第1号～100号、第101号～200号の2冊を発行し、以降は合冊せず高等部図書館に収められている。(資料センターでは縮刷版を閲覧することができる)

概要

発行頻度：年2回、各学期末の定期発行。これに加

え、有志で「文化祭特別号」を出すこともあるが、出さない年もあり、体裁も定まっていないため定期発行に数えていない。メインロゴに加え、名物コーナー「いちごんはんく」のロゴは、伝統として長く受け継がれている。

発行者：当代部長が発行者となる。定例としては週一日、昼休みのみの活動なので、3年生の負担は少なく、例年2学期末までは3年生の部長が発行者となっている。

従来は生徒会活動を別な視点から見守る生徒の活動として出版部部長が評議会に出席し、その動きを報道していた。しかし、時代の流れの中で生徒会三者を客観的に評価する視点が必要なくなってきたこと、生徒会の正規の広報紙(「BLUE MOUNTAIN」)が別にあること、また学年に部員が1名しかいない年も少なくない中、文化委員会に加え評議会に参加する部員の負担を鑑み、現在は行われていない。

代わりに、数少ない文化系クラブとして、報道はもともと文章を書くのが好きな生徒や小説など創作をしたい生徒、写真撮影に関心がある生徒などの受け皿となり、自由な執筆活動を支援している。

もちろん生徒会で動きがあった場合(一昨年のダウンジャケット導入、数年前の電子機器ルール改正など)は、いち早くその動きを報道したり、一般生徒にアンケートを採ったりするなど、「学校新聞」としての色が強く出る場面もある。

記事

掲載記事は、以下の種類に分けられる。



1) インタビュー

生徒会正副会長、文化祭正副実行委員長や文化・体育委員長、各部活の部長など生徒にインタビューすることが多いが、その年度に採用された特別教諭の人となりを知るためのインタビューや、各教科の面白さを教えてもらう「教科雑感」、内部進学する3年生をターゲットにした「学部長インタビュー」など、様々な立場の方々にお話を伺い、全校生徒に紹介している。

インタビューは技術が必要なため、合宿で知識の交換や実践訓練をしたり、本職の記者の方に話を聞きに行ったりやり方を学んだりすることもある。



2) 論説

一般紙における「社説」のようなもの。学校の中で起こっている問題や、社会で起きている問題を題材に、フォーマルな形式でまとめた文章を指す。毎号必ず掲載する。

3) りょくえん

『朝日新聞』の「天声人語」のように、「論説」よりはライトに、分量も短くまとめた文章。本来は毎号載せていたが、近年新聞を取らない家庭も多く、イメージづらいためか、生徒は少し書きにくそうにしている。

4) いちごんはんく

高等部に昔から住みついている年老いた亀「阿Q」が、その超越的な視点から高等部の現在について独白する文章。連綿と続く高等部の伝統を感じさ

せる記事であり、同じ文体、視点で書かなければならないため、部員の良い文章訓練にもなっている。



5) 書評・映画レビュー

前述したように文化部系のクラブが少ない高等部において、小説や映画について紹介したり語り合ったりしたい生徒が楽しんで書いているコーナー。作品の傾向は特になく、マニアックなものが紹介されることもある。

6) 小説

書評同様、「文芸部」としての活動に期待した生徒の受け皿となっている。

「高等部新聞」は記名執筆の責任を実感させるため、原則記事に署名をすることになっているが、小説はペンネームでも良いことになっている。

7) フリー

前項までのどれにも当てはまらない文章の総称。基本的にはエッセイや趣味の紹介など、部員個人のこだわりを文章化したものが多い。

記事の変遷と今後

「新聞」の役割や形態が変化していく中、「高等部新聞」がどうあるべきかについては、継続的に考えていかなければならない。

かつては教員のお宅訪問など、アクティブな企画が見られたが、教員のプライバシーや生徒の関心を考えると、今日的な企画とは言えない。

現在、「高等部新聞」に何ができるのか、一般生徒のニーズや部員の「書きたいこと」を精査し、より魅力的な紙面になるよう話し合いを始めている。

伝統を受け継ぎつつ、その時代に求められる新聞に——。顧問として生徒の意欲的な活動を見守っていきたい。

資料センター利用状況等(2023年度後期利用状況)

1. 月別利用者数 () 内は前年度の数

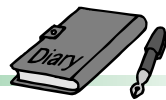
		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
展示見学者数		(145)	420	(500)	1373	(477)	364	(86)	76	(57)	34	(300)	231	(1565)	2498
資料閲覧者数		(11)	5	(10)	8	(3)	9	(7)	5	(6)	2	(4)	5	(41)	34
閲覧者の区分	本学学生	(3)	0	(4)	1	(2)	2	(3)	1	(0)	0	(0)	0	(12)	4
	現教職員	(5)	1	(4)	5	(1)	3	(2)	1	(3)	0	(1)	4	(16)	14
	旧教職員	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(1)	1
	校友	(1)	1	(0)	0	(0)	2	(0)	1	(1)	1	(1)	0	(3)	5
	一般	(2)	3	(2)	2	(0)	2	(2)	2	(2)	0	(1)	1	(9)	10
利用の目的	教会史編集	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	0	(2)	0
	学校史編集	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	1	(0)	3
	著述・論文作成	(3)	0	(7)	4	(0)	4	(3)	2	(1)	0	(0)	1	(14)	11
	伝記資料調査	(1)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(2)	0	(0)	0	(4)	1
	記録類の調査・研究	(2)	3	(0)	1	(3)	8	(4)	4	(3)	1	(1)	1	(13)	18
	その他	(5)	1	(2)	3	(0)	2	(0)	6	(1)	0	(2)	2	(10)	14
資料の種類	青山学院史関係(AA)	(63)	2	(85)	30	(33)	57	(50)	4	(52)	11	(78)	21	(361)	125
	メソジスト教会関係(B)	(1)	15	(20)	3	(0)	3	(0)	1	(0)	0	(1)	0	(22)	22
	英語・英文学関係(IEF)	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0
	明治期キリスト教関係(IG)	(0)	0	(4)	0	(0)	0	(0)	15	(2)	0	(0)	4	(6)	19
	一般分類図書	(8)	11	(12)	18	(0)	7	(64)	32	(1)	0	(1)	1	(86)	69
	その他	(4)	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(18)	0	(1)	0	(23)	2

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数 () 内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
件数		(13)	14	(8)	9	(10)	7	(7)	10	(5)	4	(10)	7	(53)	51
質問者の区分	学生	(2)	0	(1)	0	(1)	1	(1)	1	(0)	0	(0)	0	(5)	2
	現教職員	(6)	5	(5)	3	(8)	4	(3)	6	(5)	1	(6)	2	(33)	21
	旧教職員	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	1	(3)	1
	校友	(2)	1	(0)	1	(0)	1	(1)	2	(0)	2	(2)	4	(5)	11
	一般	(1)	8	(2)	5	(1)	1	(2)	1	(0)	1	(1)	0	(7)	16
質問内容	文献所蔵調査	(3)	9	(5)	5	(4)	5	(3)	5	(3)	2	(5)	1	(23)	27
	写真所蔵調査	(5)	1	(0)	0	(2)	0	(1)	1	(0)	0	(4)	0	(12)	2
	事項調査	(4)	4	(3)	4	(2)	2	(3)	4	(2)	2	(1)	6	(15)	22
	その他	(1)	0	(0)	0	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(3)	0

3. 日誌抄

2023年
10月

- ・大学青山スタンダード又平先生引率「日本事情VF」受講生、展示ホール見学
- ・2023年度第2回青山学院史研究所運営委員会に出席
- ・展示資料のメンテナンスのため、展示ホール休館(10/12)
- ・2023年度第2回資料センター展示委員会を開催
- ・埼玉県立越谷南高等学校様、展示ホール見学
- ・博物館実習(大学文学部史学科 小野先生)のため、展示室5を利用
- ・青山学院オリジナルエンディングノート勉強会メンバー、展示ホール見学
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・大学特別入試応援業務のため、展示ホール休館、事務室閉室(10/28)

・2023年度第2回資料センター運営委員会を開催

・青山学院ミュージアム建築分科会を開催

11月

- ・大森学園高等学校様、展示ホール見学
- ・特別展示準備のため、展示ホールを臨時休館(11/6～11/14)
- ・創立記念礼拝に出席
- ・石見智翠館高等学校様、展示ホール見学
- ・青山学院ミュージアム建築分科会を開催
- ・特別展示「THE MEMORIAL～学院創立記念の記憶～」を開催(11/15～12/23)
- ・東京・群馬新島研究会様、展示ホール見学
- ・大学ペアレックスウィークエンドキャンパス見学会のため、開館時間延長(11/18)
- ・青山学院ミュージアム展示構成分科会を開催
- ・青山学院オリジナルエンディングノート勉強会メンバー、展示ホール見学
- ・大学特別入試応援業務(2回)
- ・大学特別入試応援業務のため、展示ホール休館、事務室閉室(11/25)

- ・全学院事務連絡会に出席
- ・初等部4年生梅組・杏組、歴史授業で展示ホール見学
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会(第6回)を開催
- ・人事研修『「地の塩、世の光」であるサーバント・リーダー』に出席
- ・川越南高等学校様、展示ホール見学
- ・相模原キャンパスにおいてサテライト展示設営
- ・大学総合文化政策学部鳥越先生引率「環境デザイン論」受講生、展示ホール見学

12月

- ・相模原キャンパスB棟にて、第4回サテライト展示を開催(12/1～2024/1/31)
- ・初等部4年生桜組・桃組、歴史授業で展示ホール見学
- ・博物館実習(大学文学部史学科 小野先生)のため、展示室5を利用
- ・大学経済学部岡本先生引率「ライティング&コミュニケーションB(経済)」受講生、展示ホール見学
- ・防災館体験学習に参加
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・青山学院ミュージアムデジタル分科会を開催
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会(第7回)を開催

2024年

1月

- ・特別展撤収作業のため、展示ホール休館(1/6～1/12)
- ・青山学院ミュージアム展示資料実測作業
- ・大学入学共通テスト応援業務

- ・青山学院ミュージアム開設準備委員会にて、中野区立歴史民俗資料館を視察
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会(第8回)を開催
- ・大学定期試験監督業務
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・青山学院ミュージアムデジタル分科会を開催
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』29号発行

2月

- ・相模原キャンパスにおいてサテライト展示設営
- ・相模原キャンパスB棟にて、第5回サテライト展示を開催(2/1～3/31)
- ・大学入試期間のため、展示ホール休館(2/7～2/19)
- ・大学入試業務
- ・押絵雛を展示(2/20～3/30)
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会(第9回)を開催

3月

- ・施設・経理合同担当者会(Web会議)に出席
- ・初等部1年生、授業で展示ホール見学
- ・臨時全学院事務連絡会に出席
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・青山学院ミュージアム展示構成分科会を開催
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・大学学位授与式応援業務
- ・青山学院ミュージアム展示整備に関する定例会(第10回)を開催

2023年度後期受入れ 資料

(学内部署からの移管資料は除く)

寄贈 (敬省略、受入順)

Linda Hatfield

- Mary Star Jost(Hariet Jostの姉妹)が留学中に作成したスクラップブック(写真①)
- 修了証書 私立日語文化学校 昭和5年8月31日 Eleanor Jost(Hariet Jost姪)
- 緑色の絹の振袖および帯
- 市松人形
- 白居易の漢詩「憶江南」が書かれた大きい扇子および生徒の名前の寄せ書きが書かれた小さい扇子
- 『My Lantern』Michi Kawai Tokyo, Kyobunkwan, 1939
- 『袖珍コンサイス和英辞典 :Sanseido's concise Japanese-English dictionary』石川林四郎編 三省堂, 1923年
- 富士山、鎌倉、日光のモノクロ写真に彩色をほどこした写真絵葉書を集めたアルバム
- 「薄幸の詩人啄木のふるさと」絵葉書セット
- Eleanor Jost(Hariet Jost姪)の日本的背景の著作原稿

白山達也

- 1988年度幼稚園入園式次第 1988年4月6日

株式会社ユーコム

- BSフジ「梶原善のビルプラレトロ探訪」DVD 2023年10月13日放送 岡部一興

- 『舊新約全書』14版 大英北英聖書会社 1906年1月31日

- 『舊新約聖書』2版 米國聖書会社 1921年12月17日

- 『讃美歌』14版 教文館、警醒社 1931年12月10日

田上望

- 青山女学院手芸部生徒大正期写真 1913年(写真②)

青山学院高等部同窓会

- 「青山学院高等部同窓会報」Vol.85 2023年11月15日

本多泰

- 青山学院高等学部商科卒業記念写真帖 1929年3月

小山優子

- 青山学院高等女学校舎写真
- 青山学院高等女学部生徒写真 1931年3月
- 青山学院高等女学部写真(バイブルクラス 旧約聖書エステル記)(写真③)
- 青山学院高等女学部作文集

上野真澄

- 青山学院創立百周年記念青山祭 記念消印押印葉書 1974年11月2日

青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会

- 「グリーンハーモニーOB NEWS」No.68 2023年12月

津田守

- 「勝海舟と津田仙 アメリカ人クララが見た義父とその友人」DVD 於:2023年7月21日 佐倉市立美術館 講師:ダグラス・A・スティフラー博士 2023年11月
- 「津田仙 津田梅子の父・津田仙生誕180年記念企画 WHO IS SEN? 津田仙 ～近代日本の先駆者～」2017年11月22日

青山学院大学英米文学科同窓会

- 「青山学院大学文学部英米文学科同窓会 創立25年の歩み」パンフレット(写真④)、クリアホルダー 2024年2月

山室宗作

- 「横浜全図」明治21年 横浜開港資料館所蔵 1888年

津上智実

- 「本邦《メサイア》演奏史の基礎資料:所蔵の現状と問題点」津上智実著 『大阪芸術大学大学院藝術文化研究』第28号抜刷 2024年2月16日
- 「同志社のヘンデル《メサイア》演奏史 初期の試みから復活第10回(1974年)まで」津上智実著 『神戸女学院大学論集』第70巻2号抜刷 2023年12月

渡邊宣博

- 「初代牧師・本多庸一客死の地 長崎巡礼の旅」チラシ 2024年2月15日

道山秀樹

- 明治四十三年三月中外国旅券下付表 1910年3月 一般社団法人笹森順造直伝兵法白嶺北天会
- 『笹森順造先生生誕135周年記念誌』白嶺北天会 2022年11月12日(写真⑤)

外山信司

- 「植民地朝鮮におけるアメリカ南部メソジスト監督教会海外女性伝道協会による女子教育」 朴宣美著 『歴史人類』第51号 2023年2月

藏中さやか

- 「松山高吉研究-神戸女学院所蔵聖書翻訳資料を中心に-」藏中さやか他著 『2023年度神戸女学院大学研究所総合研究助成報告書』 2024年1月31日

林ありさ

- 昭和17年写真アルバム 1942年

- 緑岡幼稚園ビデオテープ

明治学院大学歴史資料館

- 『井深梶之介日記 明治編』学校法人明治学院 2024年3月31日

鳥越けい子(大学名誉教授)

- 「鳥越けい子青山学院大学退任記念最終講義 サウンドスケープ-越境から融合へ-」 2024年3月8日

- 『渋谷丸山町に生きる料亭三長』鳥越けい子著 2024年3月15日
- 「料亭の未来を創る」-高橋千善氏が語る、料亭三町の歴史と未来-
- 『渋谷丸山町に生きる料亭三長』参考資料 2023年11月10日
- 他大学・学校
- 年史・紀要類

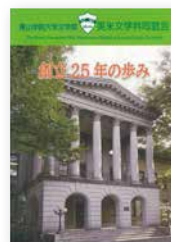
写真①Mary Star Jostのスクラップブック



写真②青山女学院手芸部生徒大正期写真



写真③青山学院高等女学部バイブルクラス写真



写真④「青山学院大学文学部英米文学科同窓会創立25年の歩み」



写真⑤「笹森順造先生誕生135周年記念誌」

学院創立150周年記念特別展示「ロバート・S・マクレイ展」開催のお知らせ

マクレイ記念館(大学18号館)のオープンに記念して、学院創立150周年記念特別展「ロバート・S・マクレイ展」を開催しております。青山学院の源流となった三つの学校のうちの一つ、美會神学校を設立したマクレイの資料を、是非、ご堪能ください。

会期：2024年7月1日(月)～11月30日(土)

会場：青山キャンパス 大学18号館(マクレイ記念館)2階
相模原キャンパス B棟1階アトリウム 万代図書館入口

時間：月～金曜／9:30～17:00

土 曜／9:30～13:00

※上記の時間外でも大学図書館の開館時間内は見学可

特別展示の
ポスター



資料センターからのお知らせ

— 青山学院ミュージアム開設準備に伴い、展示ホールを休館いたします —

2025年5月、青山学院資料センターは「青山学院ミュージアム」としてリニューアルオープンいたします。つきましては開設準備のため、以下のとおり展示ホールを休館とさせていただきます。

休館期間：2024年5月1日(水)～2025年4月30日(水)

なお、上記期間はレファレンス・資料閲覧業務につきましても休止とさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

■青山学院ミュージアムについて

現状の資料センターをリニューアルするかたちで、間島記念館に「青山学院ミュージアム」を開設いたします。1階に展示室を設け、学院のサーバント・リーダーやキリスト教史、学院史などをテーマにした展示を、2階にはデジタルアーカイブの閲覧やギャラリートークを開催できる多目的ラウンジ、さらに大学の博物館実習に使用するエリアなどを計画しています。



サーバント・リーダー・ルーム



学院史の展示室

■間島記念館 青山学院ミュージアム募金のお願い

学院の150年にわたる貴重な所蔵資料の修復・維持・保管・公開のため、および文化遺産でもあり学院のシンボリック建造物である間島記念館の維持保存のためにご支援をお願いいたします。詳細につきましては、青山学院ウェブサイト内の「ご支援をお考えの方へ」をご覧ください。 <https://www.aoyamagakuin.jp/support/>

お問合せ

TEL:03(3409)6742 / FAX:03(3409)8134

Email: ag-archives@aoyamagakuin.jp

最新情報はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html>



『Aoyama Gakuin Archives Letter 青山学院資料センターだより』は、今号をもって休刊となります。

なお、ミュージアム開設後には、新たな形で情報をお伝えする予定です。

資料センター運営委員

院長(職務上) 山本与志春
常務理事1名(職務上) 樋 香津美
学院宗教部長(職務上) 伊藤 悟
大学図書館長(職務上) 伊達 直之
青山学院史研究所長(職務上) 小林 和幸
大学 教員1名 岩井 浩人

高中部(高) 教員1名
高中部(中) 教員1名
初等部 教員1名
幼稚園 教員1名
総局長(職務上)
資料センター事務長(職務上)

宇田川雅子
南部 理奈
小林 寛
岡林 亜季
石黒 隆文
岩本 智実

資料センタースタッフ

資料センター事務：
専任職員 2名
派遣職員 1名
パートタイム職員 2名
(週4日:1名、週5日:1名)
『青山学院150年史』編集業務：
大学青山学院史研究所

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 30号

青山学院資料センター編・発行
2024年7月31日発行

